

第65回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：平成29年12月1日（金） 10：30－11：25

2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

葛西委員長、松井委員長代理、後藤委員、中須賀委員、山川委員

(2) 政府側

和泉内閣総理大臣補佐官

河内内閣府事務次官

宇宙開発戦略推進事務局 高田事務局長、佐藤参事官、高倉参事官、滝澤参事官、山口参事官、行松参事官

4. 議事要旨

(1) 最近の宇宙政策の取組状況について

宇宙開発戦略推進事務局、関係府省より説明を行った。委員からは以下の様な意見があった。

- 準天頂衛星の4機体制が確立したが、今後は、地上での利用拡大を図っていくことが重要。そのためには、受信機の小型が必要。また、安否確認の送信機の小型化も必要。加えて、プロモーション活動を通じた、国内におけるムーブメント作りも行っていくことが必要。
- 国際宇宙探査については、来年3月の ISF (アイセフ) 2 (ツー) に向けて、具体化に向けた検討を加速していくことが必要。
- 新たな宇宙ビジネス創出のための、S(エス)-Booster (ブースター) と実証事業は非常に重要な取組。しかし、「やって終わり」にならないよう、事業化に向けたフォローアップをオールジャパンで進めていくことが必要。

(2) 宇宙基本計画の工程表改訂案について

宇宙開発戦略推進事務局より説明を行った。委員からは以下の様な意見があった。

- 開発の根っことも言える「人的基盤の強化」が、今回の工程表改訂に入ったことは非常によい。特に、宇宙探査を我が国として進めていく上で、我が国にはその人材が枯渇している。今回の改訂を出発点に人的基盤の強化を進めていただきたい。
- JAXA の中期計画の中で、「安全保障」という言葉が最初に出てくる。宇宙政策委員会での議論と JAXA の方向性が合ってきたということだと思う。非常に良いことである。今後、安全保障の具体的な内容について、スペースデブリ対策などのみならず、もう少し視野を広くもって、議論し、方向感を出していただきたい。こうした安全保障強化に向けた取組が起爆剤となって、産業・民生分野などへの波及効果が期待されるということだと思う。

- 数年前に比べて、宇宙政策がうまくバランスよく、多面的な観点から進められるようになった。引き続き、宇宙の利活用をしっかりと進めていくべきだと思う。我々の生活や産業の中に意識せずに入ってくるのが理想。そのための基盤ともなる、準天頂衛星の7機体制確立や、情報収集衛星の整備、H3ロケット開発を着実に進めていくために、必要な予算をしっかりと確保することが、まず最初にやるべきことだと思う。
- 宇宙は「情報を取る場」と認識し、もっと積極的に活用していくべきだと思う。米国は既にそういった考えで、徹底的に宇宙を活用した情報収集を進めている。
- 最近、宇宙分野においてもベンチャー企業がたくさん出てきているが、大企業が持っている技術とうまくブレンディングされるようになれば良い。例えば、大企業の技術者OBがベンチャーで再度活躍できるように、何か制度的な枠組みが必要かもしれない。
- 海外展開タスクフォースの取組を引き続き推進していくことが重要。海外においては、日本のアセットに対する期待が高い。直近、ルワンダに行ってきたが、日本への関心が非常にある。こういった国を一つでも多く見つけていくことが海外展開を進めていく上で重要。

以上